

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
静岡県 掛川市	220001	1	平成20～22年度	平成20年度
活性化計画の区域				
静岡県掛川市原泉地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率 (%) B/A	備考
地域産物の販売量の増加(荒茶)	4.58%	△34.11%	△744.76%	平成20～22年度 販売量の合計

(コメント)

計画時の地域産物の販売量(荒茶)は148,195kg(平成17～19年度)だったが、計画期間内(平成20～22年度)の荒茶販売量は97,643kgとなり、目標の154,986kgを達成できなかった。

地域産物の販売量は、平成20年度から21年度にかけて増加したが、平成22年度は、3月30日に発生した凍霜害の影響により減少した。

また、緑茶の消費の減退や単価の下落の影響により、取引先の意向が品質重視に変わり、みる芽(柔らかく若い芽)での生茶葉摘採が主流となったため、単位面積当たりの生茶葉収量が減少し、荒茶の生産量が減少したため、目標達成に至らなかった。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
農林水産物 処理加工施設	荒茶加工施設の整備 120K-2.5ライン(蒸機2台・粗揉機2台・中揉機1台・荒茶総合調整機一式)			農事組合法人 原泉茶業組合
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
農事組合法人 原泉茶業組合	平成20年度	平成20年度	平成21年3月16日	
事業の効果				
新たな製茶機械を導入したことで、荒茶の品質が向上し、平成21、22年度の荒茶平均単価は掛川市農協管内の平均を大きく上回った。				
また、荒茶製造工程をコンピュータ管理にしたことで、作業労力の軽減、作業効率の向上及び製造コストの低減を図ることができた。				

3 総合評価

(コメント)

計画目標を達成することはできなかったが、事業の実施により荒茶の販売単価が上昇し、地区の荒茶の生産体制が強化され、農業経営の安定が図られた。

また、(農)原泉茶業組合では地区内の耕作放棄される可能性のある茶園60aの管理を実施する等、地域農業の維持・活性化に向けた取組も行っている。

今後は、計画的な茶園管理と工場運営を行い、茶園管理技術の向上や茶園管理面積の拡大に努めることで、荒茶生産量を確保し販売量の増加を図る。

4 第三者の意見

(コメント)

地域産物の増加については、緩やかではあるが増加傾向にあったわけだが、平成22年3月30日に発生した凍霜害などの影響により、生産量が伸びず目標を達成することができなかった。凍霜害という自然災害のためやむを得ないを考えるが、今後の計画的な茶園管理及び茶工場運営により販売量の増加目標に向け、茶園管理面積の拡大などによる荒茶生産量の増加に努められたい。

(掛川市農業委員会会長)